

2024年度 長期留学報告

ハンブルク大学を拠点とする 研究調査活動について

商学部・教授 山村 延郎
ハンブルク大学（ドイツ連邦共和国）
2024年9月1日—2025年9月1日



港湾都市ハンブルクで、気候・社会・持続可能性を研究した



ハンブルク港 | 国際都市の玄関口

港・商業・移民が交差する都市で、社会変容を観察した。



ハンブルク大学本部 | 1919年創設

植民地研究所等を前身とし、現在はドイツ最大の大学内アジア・アフリカ研究拠点を擁する。

研究拠点は、持続可能社会研究センター（CSS）だった

滞在中の研究環境

- ハンブルク大学・経済社会科学部の学際研究センター
- 社会・経済制度と持続可能性の変容を研究
- ハンブルク市アルトナ地区の研究拠点を活動

文献調査に加え、研究者との日常的な交流を通じて研究を進めた。

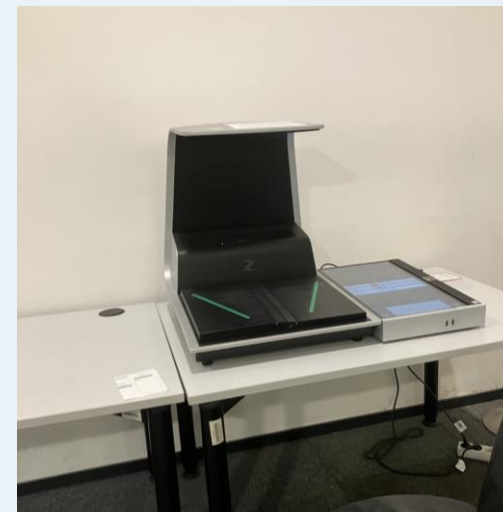


研究センター前で撮影 | ハンブルク・アルトナ

ハンブルク大学は、専用の執務空間とデジタル設備を用意した



長期滞在者用の広い個室と複数モニター



図書館ではコピー機に代わりブックスキャナを利用

提供された研究環境

長期滞在者用の個室、複数モニター、印刷・スキャン設備が一体的に提供された。

滞在中、研究センターの統合により研究基盤が再編された

研究拠点の再編

- 社会研究センター（CSS）と地球システム研究センター（CEN）が統合
- 地球・社会研究ハブ（ESRAH）が発足
- 気候研究クラスター（CLICCS）は同ハブの中核

滞在中に、学際的な研究基盤が組織として立ち上がる過程を体験した。



地球・社会研究ハブ設立記念 | 合同夏祭りでのバンド演奏（2024年）

国際研究拠点「持続可能性の未来」(FoS)に加わった



国際研究拠点「持続可能性の未来」の活動を示すポスター

「持続可能性の未来」(FoS)

- ドイツ研究振興協会（DFG）が助成
- 社会科学・人文学の研究者が国際的に協働
- 持続可能性をめぐる社会的対立・危機・自然との関係を研究
- Associated Fellowとして所属・活動

毎週、各国から集まった多分野の常勤研究員(教員・院生)と客員研究員が研究を報告し討論する能動的研究が滞在の中核となった。

多くの研究者が集う国際拠点で、研究共同体の一員となった



Frank Adloff教授

当方を迎え入れてくれた担当教授
「持続可能性の未来」主宰者の一人



FoSの研究共同体

研究会のクリスマス会にも参加
共同体の一員として日常を共有



Sighard Neckel教授

研究グループへの紹介者
持続可能性と金融を接続

さらに、ドイツ全国規模の気候研究ネットワークに参加した



アウクスブルク専門会議の参加者 © Peter Neidlinger

ドイツ気候コンソーシアム（DKK）

- ドイツ主要気候研究機関の連合体
- 2025年2月17～19日、アウクスブルク大学で開催
- 社会科学系の気候研究者100人超が参加
- 政治学・社会学・経済学を横断して議論

研究室にとどまらず、ドイツ全国規模の研究ネットワークに参画した。

専門会議では、学際的議論と都市政策の現場を往還した



専門会議ワークショップ | 共同討議

気候変動と社会変容を、専門分野を越えて参加型で議論した。



アウクスブルク | Fuggerei

歴史的な社会住宅フッゲライを訪問し、制度の持続と更新を現地で考察した。

そこで、金融機関の行動と持続可能な社会への移行を研究した

研究上の問い

**サステナブル社会への転換は、
金融機関の判断と制度をどのよ
うに変えるのか。**

- 欧州の政策・研究動向を現地で把握する
- 金融市場・金融機関と社会変革の相互作用を検討する
- 若手研究者との交流を通じ、共同研究の基盤を形成する

制度運用・研究動向・生活実態を横断的に観察し、文献だけでは捉えにくい変化を検証した。

港湾と都市再生の現場から、産業転換の課題を捉えた



港湾・物流・風力発電が同じ景観に現れる

港湾産業と脱炭素化の緊張関係を、都市景観の中で具体的に把握した。



第二次世界大戦期の高射砲塔（Flakturm IV）を緑化した「Green Bunker St. Pauli」

戦前の高射砲塔と防空施設の残骸を、公共緑地・文化施設へ転用する都市再生プロジェクトである。

気候政策・社会変革・金融制度を結ぶ視点を得た



得られた視点

- 気候政策と社会変革を結ぶ研究が活発である
- 技術論だけでなく、制度・政治・経済の分析が不可欠である
- 金融機関の行動を、社会制度との相互作用として捉える必要がある

今後の研究課題

持続可能性をめぐる制度転換と金融市場の関係を、国際比較で掘り下げる。

その視点を、ドイツ各地の大学・制度との比較で深めた



フンボルト大学 | マルクスの有名な標語が掲げられている。

研究テーマの理論的背景を、大学の知的伝統と結びつけて再考



ベルリン自由大学 | 経済・経営学部の建物。

制度・経済研究の国際的拠点を訪問



フランクフルト | 欧州中央銀行前にて。

欧州金融ガバナンスを都市空間から観察

その成果を、二つの国際研究拠点で報告した

2024.10.30 | 「持続可能性の未来」研究会（招待）

「持続可能な金融の可能性と課題」

2025.2.12 | 気候研究クラスター（CLICCS・B4）

「国際金融の転換——新自由主義・貧困削減から持続可能性・炭素削減へ」



研究会では軽食を囲み、報告後も議論と交流を継続

拓殖大学教員らしく現地の日系移民との交流を図った



日本人会主催ソフトボール大会に参加

ドイツの日系移民との交流

- 日本人会主催のソフトボール大会に参加
- 研究者自身も長期滞在者＝移民として生活経験を共有
- 日系移民の生活実践と地域社会との関係を把握

ドイツの日系移民コミュニティに属して様々な活動に参加した。

日本の視察団を迎え、スマート農業の現場を案内した



JETROデュッセルドルフで視察団を受け入れ

2025年8月、ドイツ訪問に同行。
日本からの視察団を受け入れ・アテンドした。



自律走行農機（naïo Technologies）を案内

日系経済機関・大学・企業・農場を巡り、
スマート農業の現場を案内した。

大学・教会の文化活動から、研究と社会の接点を学んだ



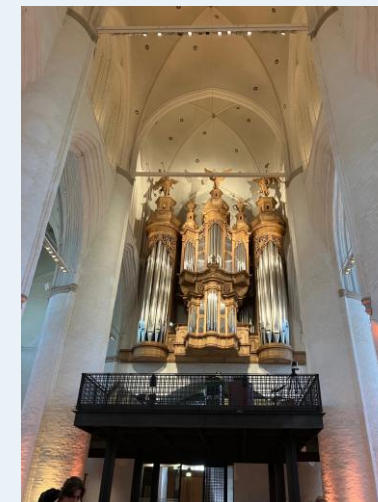
HfMT Hamburg | 音楽大学

音楽大学の教育施設と公開性を確認



公開コンサート | 市民参加

大学が芸術を市民へ開く公開コンサートに参加
(この回はピアノを伴奏にバイオリン科の学生が演奏
を披露していた。ト리는超絶技巧)



ハンブルク市内 | 教会音楽

ハンブルク市内の様々な教会でパイプオルガンに
よる演奏が定期的に行われている。

ドイツの食文化の多様化



Bergedorfer Bier | 地域の一杯

ハンブルク市ベルクドルフ区の地ビール。Berg（山）+ Dorf（村）



ファラフェル | ヴィーガン料理

ひよこ豆を用いた中東料理。ヴィーガン料理として好まれている。



ベルリン自由大学 | SHOKUDO

大学院生時代に通ったFU Berlinの学生食堂が、現在「SHOKUDO」となり、現地化した和食を提供。



ハンブルク大学 | 学食の「Udon」

ハンブルクの学食でも現地化した「Udon」が提供されていた。

ドイツで受容される日本文化



Japan-Tag | デュッセルドルフ

大規模な日独交流行事を現地で観察



Manga Hamburg | 市民文化

日本のポップカルチャーが市民交流を媒介



日本庭園 | 文化の定着

日本文化が都市の日常空間にも定着

「Udon」に負けず、研究成果を日本から世界へ発信する

今後の展開

- 在外研究で得た知見を、研究・教育に生かす
- 国際学会で報告・発表し、持続可能な社会の議論に貢献する

Udon やMochiのように、世界に出かけよう。
日本からも地球規模での議論へ発信しよう。



日本文化の紹介の一環として和装で市内を闊歩した。